

# 宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター：宮崎県健康増進課・宮崎県衛生環境研究所

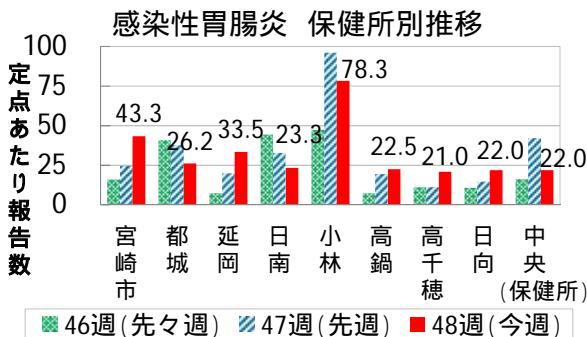
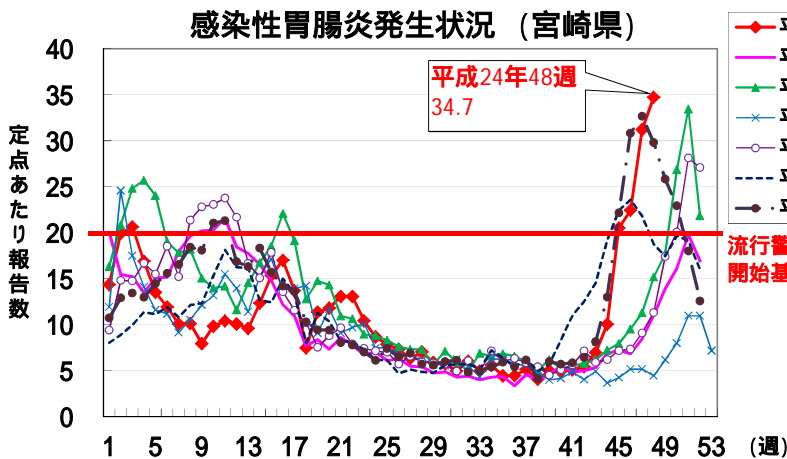
## 宮崎県第48週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は1,668人(定点あたり50.4)で、前週比116%と増加した。

インフルエンザ・小児科定点からの報告  
前週に比べ増加した主な疾患は水痘と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は咽頭結膜熱であった。

### 【感染性胃腸炎】

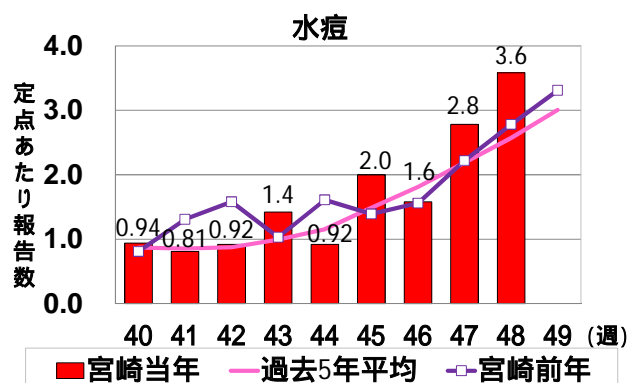
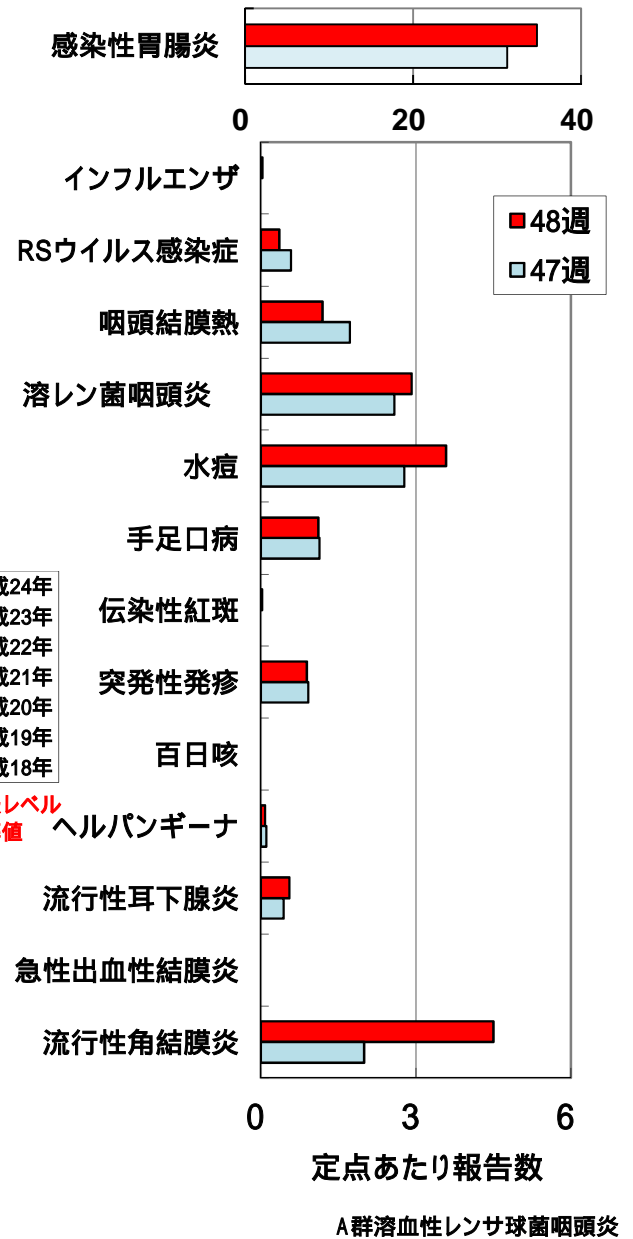
・報告数は1,250人(34.7)で前週比111%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(12.6)の約2.8倍である。小林(78.3)、宮崎市(43.3)保健所からの報告が多く、年齢別では1歳から2歳が全体の約3割を占めた。



### 【水痘】

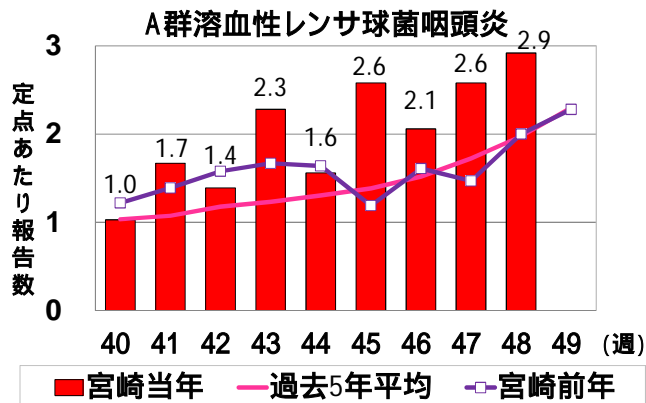
・報告数は129人(3.6)で前週比129%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(2.6)の約1.4倍である。中央(19.0)、小林(6.7)保健所からの報告が多く、年齢別では1歳から3歳が全体の約7割を占めた。

## (前週との比較)



【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

・報告数は105人(2.9)で前週比113%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(2.0)の約1.5倍である。延岡(10.0)保健所からの報告が多く、年齢別では3歳から8歳が全体の約8割を占めた。



基幹定点からの報告

マイコプラズマ肺炎：延岡(2人)、高鍋(1人)保健所から報告された。患者は2歳、3歳、7歳。

流行警報レベル開始基準値超過疾患

保健所名	流行警報レベル開始基準値超過疾患
宮崎市	感染性胃腸炎(43.3)、流行性角結膜炎(8.0)
都城	感染性胃腸炎(26.2)
延岡	咽頭結膜熱(3.5)、感染性胃腸炎(33.5)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(10.0)
日南	咽頭結膜熱(3.0)、感染性胃腸炎(23.3)
小林	感染性胃腸炎(78.3)
高鍋	感染性胃腸炎(22.5)
高千穂	感染性胃腸炎(21.0)
日向	感染性胃腸炎(22.0)
中央	感染性胃腸炎(22.0)、水痘(19.0)、手足口病(11.0)

\* 流行警報レベル開始基準値 \*

- ・咽頭結膜熱(3.0)
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・水痘(7.0)
- ・手足口病(5.0)
- ・流行性角結膜炎(8.0)

全数把握対象疾患

- 1 類感染症：報告なし。
- 2 類感染症：結核 4 例。
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例。
- 4 類感染症：つつが虫病 6 例。
- 5 類感染症：報告なし。

疾患名	報告保健所	年齢群	病型	症状	
2類 結核	宮崎市	70 歳代	肺結核	咳、痰、胸痛	
		80 歳代	その他の結核(結核性リンパ節炎)	なし	
	都城	40 歳代	肺結核	咳、痰	
	延岡	70 歳代	肺結核	発熱	
3類 腸管出血性大腸菌感染症	高鍋	30 歳代	無症状病原体保有者	-	原因菌：O26(VT1産生)
4類 つつが虫病	宮崎市	50 歳代	-	発熱、刺し口、発しん、食欲なし	
	都城	70 歳代	-	頭痛、発熱、刺し口、発しん	
	小林	30 歳代	-	刺し口、リンパ節腫脹、関節痛、倦怠感	
		50 歳代	-	頭痛、刺し口、発しん、全身倦怠	
		70 歳代	-	発熱、刺し口、全身倦怠感、患部の痛み	
	日向	70 歳代	-	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹	

## 病原体情報（衛生環境研究所微生物部 平成 24 年 12 月 4 日までに検出）

### ウイルス（サーベイランス）

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
ノロウイルスG 型	6M	男	2012.11.26	発熱、下痢、嘔吐 等	便	2012.11.28

### 細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
腸管出血性大腸菌(O103:HUT VT1)	0~4	男	2112.8.21	無症状	便	2012.11.26
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1)	0~4	女	2012.8.31	下痢、軟便	便	2012.11.26
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1)	0~4	女	2012.9.4	無症状	便	2012.11.26
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1)	30歳代	女	2012.9.2	無症状	便	2012.11.26
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1)	30歳代	男	2012.9.6	無症状	便	2012.11.26
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1)	40歳代	女	2012.9.10	無症状	便	2012.11.26
<i>Salmonella</i> Fluntern(O18:b:1,5)	0~4	男	2012.11.20		便	2012.11.30

*Salmonella* Flunternが小児から検出された。サルモネラは食中毒および人獣共通感染症の主要な原因菌の一つであるが、今回検出された*S. Fluntern* は、過去に爬虫類(トカゲ)から分離された報告がある。近年、わが国の一般家庭における爬虫類飼育者は増加の傾向にあり、2003年にはペット飼育者全体の2.4%を占めている。この菌への感染者の中には重篤な症状を呈する症例も報告されており、ペットを取り扱った後は手洗い、うがいを心がけることが大切である。また、爬虫類の飼育環境と人の生活空間を分けるよう工夫し、感染の機会を減らすことが求められる。

### ノロウイルス検出情報

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
ノロウイルスG 型	80歳代	女	2012.11.1	吐き気	便	2012.11.2
ノロウイルスG 型	70歳代	女	2012.11.2	嘔吐、下痢	便	2012.11.2
ノロウイルスG 型	40歳代	女	2012.11.1	嘔吐、下痢	便	2012.11.2
ノロウイルスG 型	80歳代	男	2012.11.5	下痢	便	2012.11.5
ノロウイルスG 型	90歳代	女	2012.11.16	嘔吐、発熱、下痢	便	2012.11.16
ノロウイルスG 型	20歳代	男	2012.11.16	嘔吐、発熱	便	2012.11.16

感染性胃腸炎の主な原因となるノロウイルスG が6例検出された。感染性胃腸炎については、吐物や便等を介して感染が拡がるおそれがあるため、日頃から手洗いを心がけ、嘔吐物等を適切に処理することが重要である。

## 全国第 47 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 20.7 で、前週比 106%と増加した。今週増加した主な疾患は感染性胃腸炎と水痘で、減少した主な疾患は手足口病であった。

感染性胃腸炎の報告数は 41,041 人 (13.0) で、前週比 114%と増加した。宮崎県 (31.2)、鹿児島県 (27.2)、福井県 (23.3) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 2 歳が全体の約 3 割を占めた。

水痘の報告数は 4,601 人 (1.5) で、前週比 114%と増加した。佐賀県 (3.2)、徳島県 (3.1)、山形県 (2.9) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 5 歳が全体の約 8 割を占めた。

全数把握対象疾患（全国第47週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	297例				
3類感染症	細菌性赤痢	3例	腸管出血性大腸菌感染症	35例	腸チフス	1例
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	2例	チクングニア熱	1例
	つつが虫病	23例	デング熱	2例	レジオネラ症	20例
5類感染症	アメーバ赤痢	7例	ウイルス性肝炎	2例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例	後天性免疫不全症候群	16例	ジアルジア症	1例
	先天性風しん症候群	1例	梅毒	3例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例
	風しん	43例	麻しん	5例		

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2012年 第48週(11月26日～12月02日)

疾病名		第47週	第48週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数		2	1	1							
	定点あたり	0.00	0.03	0.06	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	21	13		7	6						
	定点あたり	0.58	0.36	0.00	1.17	1.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	62	43	3	11	14	9	1			5	
	定点あたり	1.72	1.19	0.30	1.83	3.50	3.00	0.33	0.00	0.00	1.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	93	105	17	7	40	11	3	14		12	1
	定点あたり	2.58	2.92	1.70	1.17	10.00	3.67	1.00	3.50	0.00	3.00	1.00
感染性胃腸炎	報告数	1123	1250	433	157	134	70	235	90	21	88	22
	定点あたり	31.19	34.72	43.30	26.17	33.50	23.33	78.33	22.50	21.00	22.00	22.00
水痘	報告数	100	129	35	16	15		20	8		16	19
	定点あたり	2.78	3.58	3.50	2.67	3.75	0.00	6.67	2.00	0.00	4.00	19.00
手足口病	報告数	41	40	15	1	4	6	2	1			11
	定点あたり	1.14	1.11	1.50	0.17	1.00	2.00	0.67	0.25	0.00	0.00	11.00
伝染性紅斑	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	33	32	6	6	5	4	2	8			1
	定点あたり	0.92	0.89	0.60	1.00	1.25	1.33	0.67	2.00	0.00	0.00	1.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	4	3		1	2						
	定点あたり	0.11	0.08	0.00	0.17	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	16	20	4	12		1				1	2
	定点あたり	0.44	0.56	0.40	2.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	2.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	12	27	24	2	1						
	定点あたり	2.00	4.50	8.00	1.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	1	3			2			1			
	定点あたり	0.14	0.43	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00	1.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2012年第1週～48週)

2類感染症	結核	241例(4)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	67例(1)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	23例(6)
	デング熱	2例	日本紅斑熱	9例	レジオネラ症	5例
	レプトスピラ症	3例				
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	ウイルス性肝炎	2例	急性脳炎	8例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2例	後天性免疫不全症候群	2例
	梅毒	3例	破傷風	4例	麻しん	8例

( )内は今週届出分、再掲

感染症流行予測調査事業の一環として、2012/2013 年のインフルエンザ流行シーズン前における県内の抗体保有状況調査を宮崎県健康づくり協会および県立宮崎病院の協力を得て実施した。

調査では、9 年齢群・277 名(0~4 歳:58 名、5~9 歳:19 名、10~14 歳:25 名、15~19 歳:25 名、20~29 歳:50 名、30~39 歳:25 名、40~49 歳:25 名、50~59 歳:25 名、60 歳以上:25 名)から同意を得て、2012 年 7 月 4 日から 8 月 30 日に収集した血清を対象とした。また、下記の 4 抗原(1,2,3 は今シーズンのワクチン株)を用い、赤血球凝集抑制抗体(HI 抗体)の測定を行なった。

1. A パンデミック型 : A/California (カリフォルニア) /7/2009 (H1N1) pdm09
2. A 香港型 : A/Victoria (ビクトリア) /361/2011 (H3N2)
3. B 型 : B/Wisconsin (ウイスコンシン) /1/2010 (山形系統)
4. B 型 : B/Brisbane (ブリスベン) /60/2008 (ビクトリア系統)  
(今シーズンのワクチン株は、B 型は山形系統であるが、ビクトリア系統の代表として本株も調査対象となった)

#### [ 調査結果 ]

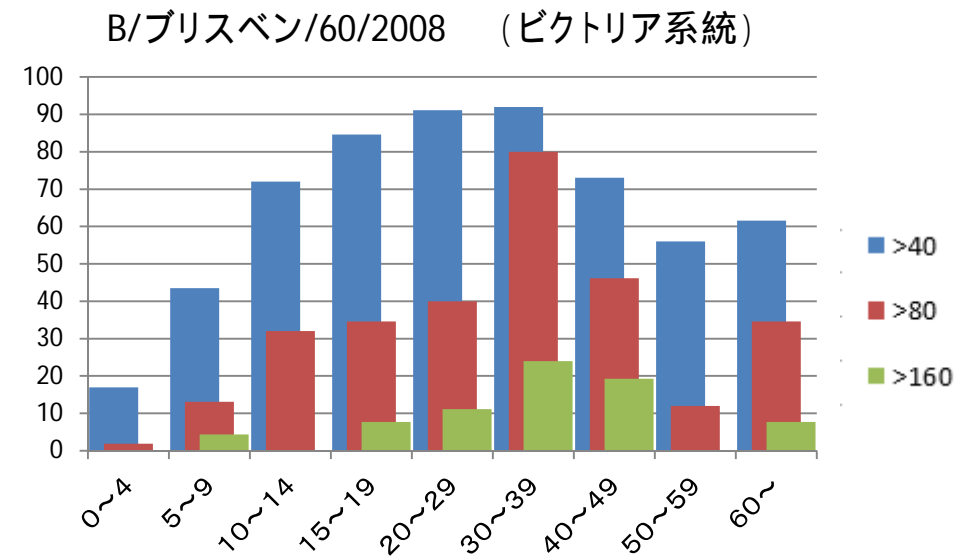
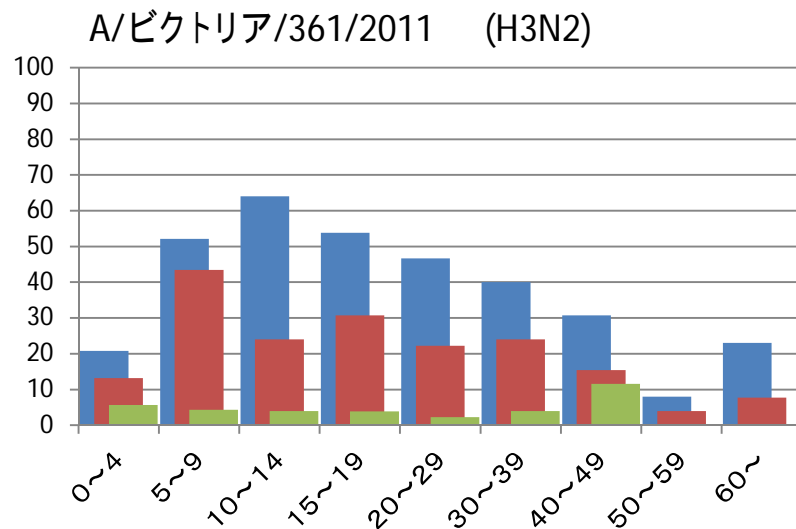
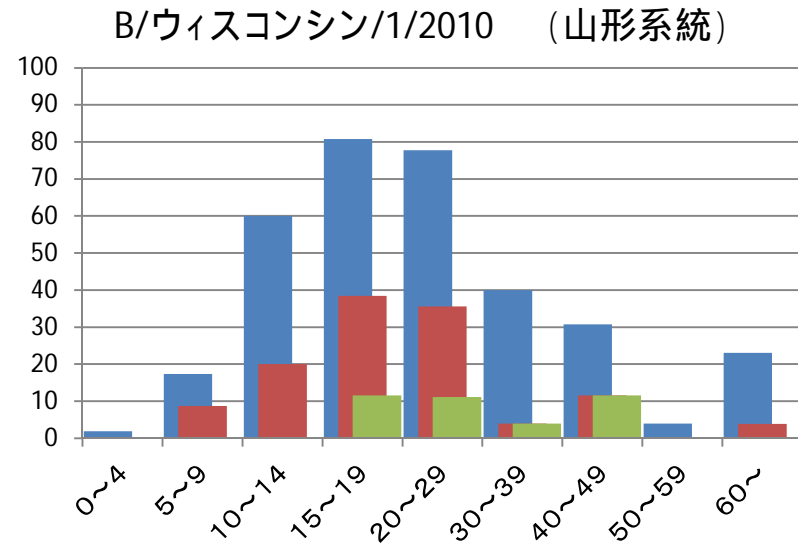
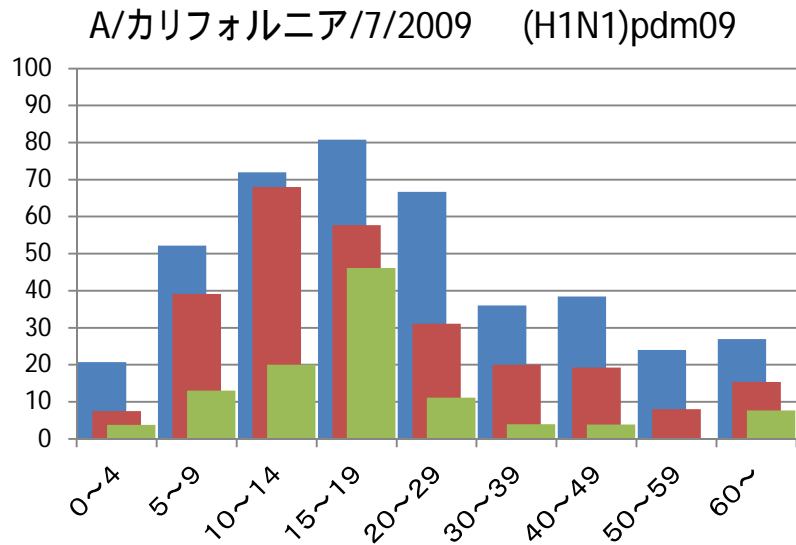
感染防御に有効と考えられる 40 倍(1:40)以上の抗体保有状況は以下のとおりであった。  
また、80 倍(1:80)以上および 160 倍(1:160)以上の抗体保有状況も併せて図に示した。

1. A パンデミック型 : A/California/7/2009 (H1N1) pdm09 に対する抗体保有状況  
5~9 歳群は 52.7%と比較的高く、10~14 歳群、15~19 歳群、20~29 歳群ではそれぞれ 72%、80.8%、66.7%と高い抗体保有率であった。30~39 歳群、40~49 歳、60 歳以上では 36%、38.5%、26.9%と中程度で、0~4 歳群と 50~59 歳群、ではそれぞれ 24%以下と比較的低い保有率であった。
2. A 香港型 : A/Victoria/361/2011 (H3N2) に対する抗体保有状況  
10~14 歳群は 64%と高い保有率で 5~9 歳群、15~19 歳群、20~29 歳群、30~39 歳群では 52.2%、53.9%、46.7%、40%と比較的高く 40~49 歳群は 30.8%と中程度、0~4 歳群、60 歳以上がそれぞれ 20.8%、23.1%と比較的低く、50~59 歳群においては 8%と低い保有率であった。
3. B 型 : B/Wisconsin/1/2010 (山形系統) に対する抗体保有率  
10~14 歳群、15~19 歳群、20~29 歳群で 60%、80.8%、77.8%と高い保有率であった。30~39 歳群では 40%と比較的高く 40~49 歳群は 30.8%と中程度で、5~9 歳群、60 歳以上で 17.4%、23.1%と比較的低い保有率であった。0~4 歳群、50~59 歳群においては 1.9%、4%ときわめて低かった。
4. B 型 : B/Brisbane/60/2008 (ビクトリア系統) に対する抗体保有状況  
10~14 歳群、15~19 歳群、20~29 歳群、30~39 歳群、40~49 歳群、60 歳以上が 72%、84.6%、91.1%、92%、73.1%、61.5%と高く、5~9 歳群、50~59 歳群が 43.5%、56%と比較的高かった、0~4 歳群は 17%と比較的低い保有率であった。

#### [ コメント ]

2011/12 シーズンは、AH1pdm09 亜型の流行はみられず AH3 が流行し、B 型の流行は小規模であった。AH1pdm09 型と AH3 型、B 型(ビクトリア系統)について、40 倍以上の抗体保有状況を前年度と比較すると、AH1pdm09 型においては大きな変化は見られなかったが、B 型では保有率の上昇が見られた。AH3 型では低下傾向がみられた。また、本調査での 80 倍および 160 倍以上の抗体保有状況は、AH3 型に比べ AH1pdm09 型に対するものが高い傾向であった。AH1pdm09 型、AH3 型では特に 5~19 歳で B 型(山形系統)は 10~29 歳で高かった。これらの年齢群ではインフルエンザ予防接種の接種率が 5~9 歳群、10~14 歳群、15~19 歳群で 47%、44%、44%と他の群に比べ高く、その影響を受けたものと推測される。一方、B 型(ビクトリア系統)では 0~4 歳を除く各年齢群で高い保有率を示した。

今シーズンは、すでに関東・近畿で AH1pdm09 亜型あるいは AH3 亜型による集団発生の報告があり、47 週には東北、関西圏で学級閉鎖が発生しており AH3 亜型が検出されている。これらのことから、今シーズンも本格的な流行が始まる前の予防対策が必要である。



宮崎県における年齢別HI抗体保有状況(2012/13シーズン前)